

# 感動一点の場

『芦別風景』

1969年 小川原 脩 画



画面を大きく占める緑が目をはきく風景画の裏には「六月」と記されています。小高い場所から見下ろした芦別の街を描いた作品です。左にある道路は、山に向かって遠くへと真っすぐにのび、小さな作品でありながら奥行きのある構図を作っています。

あらためて目を向けると、手前にある木々は濃淡のある緑に白や黄色を混ぜ、葉がこんもりと茂っているように表現されていて、地面からすらりとのびる幹もそれぞれ太さと向きを変え、やや濃いめの色を使って絵全体をバランス良く仕上げています。スケッチするような軽やかな筆使いで描いたように見えますが、画面の右下にある川には対岸の陰も丁寧に塗られているのです。

ただ単に写実的な表現にとどまらず「リズムを大切に」描く小川原の風景画からは、その場所にいるかのような光や新緑の匂いを感じられます。

芦別の初夏を描いたこの作品は、当館の第2展示室で2月5日(日)までご覧になれます。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

## ふる探訪

### いるけれどなかなか見られないエゾユキウサギ

477回

冬の季節が進み、足元の雪が固く締まってくると、森で動物の足跡を目にする機会が増えてきます。キツネやタヌキの足跡にまじり、ひときわ大きな足跡を残すのはエゾユキウサギです。

エゾユキウサギは日本国内では北海道にだけ生息している野生のウサギで、倶知安でも旭ヶ丘総合公園や半月湖周辺をはじめ、広いエリアに生息しています。

彼らの大きい後ろ足は私たちの使うカンジキやスノーシューにも例えられ、新雪・深雪の上でも沈まず素早く動き回ることができます。雪の上では足跡やフンといった痕跡が目立つため、姿も簡単に見られるのではと思ってしまうのですが、茶色い夏毛から真っ白な冬毛になった彼らはすっかり雪に紛れてしまい、見つけるのはとても難しいです。巣穴を掘らないエゾユキウサギは、このカムフラージュの技と時速80キロともいわれる俊足を武器に、エサの乏しい冬を生き抜きます。

2023年はウサギ年。森ではウサギとの出会いが待っているかもしれません。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲エゾユキウサギのはく製（風土館）



▲エゾユキウサギの足跡  
①②：後ろ足、③④：前足  
↑：進行方向

## 展覧会のお知らせ

### ■第1展示室

第64回「麓彩会展」

今年で64回目を迎える「麓彩会」。油彩・水彩・日本画・書・陶・写真・彫刻・ミクストメディア・・・ますます多彩な展覧会になりました。地域に根差した創作活動を展開する作家25名の作品を紹介します。

【出品作家】 荒野紫洋 レINHARD・アートパーク 菊池ひとみ 岸本春代 小島英一 坂口清一 嶋貫由紀子 高橋篁仙 徳丸 滋 徳丸 晋 仲 駿輔 西村勝廣 羽山雅愉 林 幸子 林 雅治 坂東宏哉 府川 誠 福田好孝 穂井田日出麿 本庄隆志 本庄優子 宮崎むつ 山川由紀子 山田則意 米澤邦子

会期：開催中～2月26日(日)

### ■第2展示室

没後20年 小川原脩展「小川原先生のちいさな名品展」

小さな作品ばかりを集めた展覧会です。本誌で連載中の「感動の場一点」にて今年度を通して紹介している「北海道の風景」に登場した作品も勢揃い。実際にご覧になってお楽しみください。

会期：開催中～2月5日(日)

## アート・イベントのお知らせ

### ■ギャラリー・トーク

アーティストトーク「麓彩会展」

出品作家が自身の作品を前に創作秘話を語ります。日程によって来場作家が異なりますので、詳細は美術館フェイブックをご覧ください。

日時：1月7日(土)、21日(土)いずれも14時～14時30分

会場：展示室（要観覧料）

### ■土曜サロン

おとなの手しごと(18)「模写～ちいさな名品展～」

小川原脩「ちいさな名品展」の作品から、北海道の風景画や果実の静物画、「チベットの踊り子」などを模写しませんか。

日時：1月28日(土)14時～16時 会場：第2展示室（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員）・金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

### ★たくさんのご来館ありがとうございます



▲京極夏彦美術展2千人達成（11月27日）



▲第64回麓彩会展アーティストトーク（12月10日）

### ★風土館の新たな展示

風土館では12月からジオラマ展示（はく製以外は職員の手作り）を設置しました。ぜひ今年の干支に会いに来てください。

# ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)  
高校生 300円(200円)  
小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)  
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時  
入館は16時30分まで  
※( )内は10名以上の団体料金  
1月の休館日 毎週火曜日、  
1日(日)～5日(木)(年末年始休館)

### 野田弘志展

はじめに、当美術館にて開催された京極夏彦美術展が、11月27日をもって無事盛会裏のうちに終了しました。約2カ月の開催で来館者が2千名を超え、当館始まって以来となる多数のご観覧をいただくことができました。

開催に際し、ご協力いただいた関係者の皆さまや、ご観覧いただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。

先日、日本のリアリズム（写実主義）絵画の第一人者で壮瞥町在住の画家、野田弘志展に初日に行くことができました。札幌芸術の森美術館の空間を生かした、本格的な大回顧展です。

野田氏はおよそ10年単位でテーマやモチーフを変えており、黒の時代と呼ばれる70年代の代表作「やませみ」は、執念すら感じさせる精緻な描き込みにより、漆黒の背景から実物が浮かび上がるかのようでした。

館長 福原 秀和



▲ジオラマ展示（風土館）